



わかたけ



<https://tsubame.schoolweb.ne.jp/1510064>

「褒めること」と「認めること」

校長

P T A総会に多数の保護者の皆様からご参加いただき、ありがとうございました。

P T A総会の校長のあいさつの中で、「お子さんの話をよく聞いてください。」「お子さんの頑張りを認め、褒めてください。」ということをお願いしました。国立教育政策研究所の生徒指導リーフ Leaf.18 には、「褒めること」と「認めること」の違いについて載っていますので、ご紹介します。



大人のがわにしてみれば、この両者の違いはあっていないようなものでしょう。「認めてあげようと思って、褒めている」「褒めることは、そのまま認めること」という感覚なのではないでしょうか。

大人が子どもを「褒める」ときは、一般に大人の基準や水準で「褒める」ことが多いように思われます。そして、大人のがわの基準で一定の水準に達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。反対に言えば、水準に達しない場合には「頑張りなさい」と叱咤激励することはあっても、褒めることはまれでしょう。

それに対して、子どもが「認めてもらいたい」ときというのは、一般に子どもの基準や水準で「褒められたい」のではないのでしょうか。子どもなりのこだわりで努力したり工夫したりしたことを「認められたい」のです。(抜粋)

学校では、単によかった・悪かったと評価するだけの「褒める」ではなく、お子さんが「こだわった」「見てほしかった」点を認めることを大切にしています。そのために、子どもたち一人一人をきちんと見ていきます。

ご家庭でも、どこが、どのようによいかを伝えたり、感謝の気持ちを伝えたりしてください。そうすることにより、お子さんは「自分のことをよく見てくれている」「大切にされている」「愛されている」と感じます。それが、自信となり、前向きにがんばる力となります。お子さんの頑張りを認め、褒める時間をつくっていただけたらと思います。

さて、新学期が始まり、1か月半が過ぎようとしています。新しい環境に少し疲れ気味であったり、目標どおりにいかずに自信をなくしたり、やる気が出なくなったりするお子さんもいるかもしれません。心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。



運動会スローガン「赤・白 最後まで 正々堂々 がんばろう」

5月7日から教室での応援練習が始まり、今週は児童玄関や体育館での全体練習も始まりました。応援リーダーがしっかりと指示を出し、頼もしい姿を見せてくれています。赤組も白組も応援練習に熱が入っています。



さて、運動会は、子どもたちが楽しみにしている行事の1つですが、次のような意義があります。

- ・自分が担当する係に取り組むことで、責任感、判断力、協働力を育むことができる。
- ・応援団の目標に向かって力を尽くしたり、学年を超えて応援したりすることで、自分や他者のよさを感じ、自己肯定感や自己有用感、思いやりを育むことができる。
- ・集団の目標を達成した喜びやできなかった悔しさなどを経験することを通して、豊かな人間性を育むことができる。
- ・学校集団の一員として規律ある行動を身に付けることができる。
- ・高学年の姿にあこがれをもったり、低学年に優しく教えたりするなど、子ども同士の縦のつながりが深まる。 など

子どもたちは、競技の勝敗や順位が気になると思いますが、自分がどう取り組んだか、自分の取組に対して納得感をもてたかということも大切にしてほしいです。競技や応援、係の仕事など、自分ができることに精一杯取り組み、「自分の心の1等賞」を目指してほしいと思っています。保護者の皆様からも、お子さんに励ましの声掛けをお願いいたします。

子どもたちの学習の様子



【1年生を迎える会】2～6年生のお祝いの気持ちが伝わる温かい会となりました。



【第1回防災訓練】どの学年も真剣な表情で取り組む姿がすばらしかったです。



【1・2年生：一緒に遊ぼう】2年生がリーダーになって、楽しく遊びました。



【4年生：横田切れ】信濃川大河津資料館コーディネーターの樋口様を講師に横田切れについて学びました。



【1・3年生：交通安全教室】燕警察署と交通安全協会の方から、1年生は歩行の仕方について、3年生は自転車の乗り方について教えていただきました。